

審判に関する申し合わせ事項

審判規則委員会

1. 責任審判

- ・チーム役員（引率教員またはコーチ）は、ホイッスル（短管および長管）、腕時計を持参し、指定された試合の審判を担当する。
- ・審判のチームは、コートオフィシャルとして、スコアラー1名、ラインジャッジ4名、得点掲示2名（足りない場合は1名）を、登録選手から出す。
- ・会場校は、（1面につき）ラインジャッジフラッグを4本と警告カード（黄・赤）を準備する。
- ・審判員の服装は、特に指定しないが、左右にポケットのあるスラックス着用が望ましい。
- ・審判員は（公財）日本バレーボール協会公認の審判資格を所有していることが望ましい。また、各地区で実施される審判講習会に参加することが望ましい。

2. 主審の権限（競技規則 23.2）

- ・主審は、試合開始から終了までを主宰し、その試合の審判団と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。（同 23.2.1）
- ・主審は、競技規則に明示されていないすべての問題を含めて、競技上のあらゆる問題を解決する権限を持っている。（同 23.2.3）
- ・試合中、主審の決定は最終である（主審だけが、ラリーの勝ちサイドを決めることができる）。（同 23.2.1）

3. 副審の責務…試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。（競技規則 24.3.2）

- ・相手コートおよびネット下方の空間へ侵入したとき。（ペネトレーションフォルト）
- ・レシービングチームのポジションの反則のとき。
- ・主としてブロッカー側のタッチネットの反則と、選手が副審側のアンテナに触れたとき。
- ・バックプレーヤーがブロックの完了をしたときや、リベロがブロックの試みをしたとき。または、バックプレーヤーやリベロのアタックヒットの反則のとき。
- ・ボールがフロアに触れて、主審がその接触を確認できないとき。
- ・相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。

4. スポーツマンにふさわしい行為、フェアプレー（競技規則 20）

- ・競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。（同 20.1.1）
- ・競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通してのみ説明を求める

ことができる。(同 20.1.2)

- ・競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。(同 20.2.1)
- ・競技参加者が、これらの事項に反した場合、警告(ステージ1:チーム全体に対する口頭での警告、ステージ2:黄カードでの警告)が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティ(赤カードによる)が科せられる。
- ・監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけたりするようなことはできない。
- ・試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わすことを奨励する。

5. チームリーダー(競技規則 5)

- ・チームキャプテンと監督は、チームメンバーの行為や規律に対して責任を負う。
- ・試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督はゲームキャプテンを指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまで、その責務を担う。
(同 5.1.2)
- ・ゲームキャプテンだけがボールがアウトオブプレーのとき、次の場合は審判員への発言を許可される(同 5.1.2):
 - 競技規則の適用や解釈について説明を求めるとき。
 - チームのポジションが正しいか確認するとき。
- ・監督は、試合を通じて、コートの外からチームのプレーを指揮する。(同 5.2.1)
- ・監督は、試合開始前、選手の名前と番号が記入された構成メンバー表をスコアラーに提出し、サインする。(同 5.2.2)
- ・監督は、各セットの開始前、正しく記入されたラインアップシートにサインし、副審またはスコアラーに提出する。(同 5.2.3.1)
- ・監督は、試合中、正規の試合中断(タイムアウト)を要求する。(同 5.2.3.3)
- ・監督は、試合中、スコアラーズテーブルに最も近い位置でチームベンチに座る。ボールがアウトオブプレーのとき、アタックラインの延長線からウォームアップエリアまでの自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立って指示を出すことができる。
(同 5.2.3.4 および(公財)日本中体連における6人制ルールへの取り扱い)

6. 正規の試合中断(競技規則 15)

- ・各チームは、1セットにつき2回までのタイムアウトと、6回までの選手交代を要求することができる。(同 15.1)
- ・タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、監督がベンチから立ち上がってコールをしながら該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。

チームの要求によるすべてのタイムアウトは 30 秒間である。(同 15.4.1)

(副審は吹笛し、ハンドシグナルを示した後、計時を開始し、30 秒後に吹笛する)

- ・選手交代は、選手交代ゾーン内で行わなければならない。

選手交代の要求とは、中断の間に、プレーする準備のできた交代選手が選手交代ゾーンに入ることをいう。(同 15.10)

チームが 2 組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。

7. 不当な要求 (競技規則 15.11)

以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

- ①ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。
- ②要求する権利のないチームメンバーが要求すること。
- ③インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中に 2 回目の選手交代を要求すること。
- ④タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。

- ・試合での 1 回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。制裁を受けることはないが、記録用紙には記録される。
- ・同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

8. 試合の遅延 (競技規則 16)

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は、遅延行為である。

主なものは以下のとおり。

- ①正規の試合中断を遅らせること。
- ②試合を再開するよう指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。
- ③不法な選手交代を要求すること。
- ④不当な要求を繰り返すこと。
- ⑤チームメンバーが試合を遅らせること (靴紐を結ぶ要求、ワイピングの要求など)。

- ・チームメンバーによる試合での最初の遅延行為に対しては、ディレイワーニングの罰則が適用される (黄カード)。
- ・同じチームによる 2 回目以降の遅延行為は、どのチームメンバーが引き起こしても、どのような種類のものであっても、ペナルティとなりディレイペナルティの罰則が適用される (赤カード)。そのチームは、1 点を失い、相手チームのサービスとなる。

9. 選手のユニフォームおよびチーム役員の服装

- ・選手のユニフォーム、競技者番号、チームネーム、その他の表示、アンダーウェア・ハチマキ等は、(公財)日本中体連バレーボール競技部の規定 (同競技委員会のページよりダウンロード) に準じる。
- ・チーム役員の服装も上記の規定に準じる。ただし、マネージャーが学校教職員の場合は、その他のチーム役員と統一された服装である必要がある。

ルールの取り扱いについて

1. 試合は①2020年度(公財)日本バレーボール協会6人制競技規則、
②2020年度(公財)日本中体連バレーボール競技部ルールの取り扱いについて、
③リベロリプレイスメントの変更についての付則 に則って行う。
(①は(公財)日本バレーボール協会ホームページより購入(税込1222円)、
②,③は(公財)日本中体連バレーボール競技部審判規則委員会のページよりダウンロードしてください。)
 - ・ネットの高さは次のとおりとする。男子2.30m、女子2.15m(競技規則付則の2)
 - ・試合は3セットマッチで行う。第3セットは25点制で行い、コートチェンジはいずれかのチームが13点を先取したときに行う。(同付則の9)
 - ・プロトコールは、11分前から開始する。(3セットマッチ形式)
但し、ゲーム終了時は、全てのプレーヤー(最大12名)がエンドラインに並ぶ。
2. スターティングラインアップに関する事項
 - ・副審およびスコアラーは、それぞれのセット開始時に、コート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかをチェックする(リベロはチェックしない：最初のラリーからコートに入るリベロ1人がサイドライン傍に立つ)。
 - ・セットの開始前、ラインアップシート通りに位置していない場合、副審は、ゲームキャプテンを呼び、チームから提出されたラインアップシートを示し、選手のポジションの確認を行う。
 - ・セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合副審は、ラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。
 - ・監督がラインアップシートに記入されていない選手をコート上に残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審はハンドシグナルを示しながらホイッスルする。記録員は正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。(コート上の選手は手を挙げる)
 - ・監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。
3. ネット付近の選手に関する事項
 - ・ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である。
「ボールをプレーする動作中」とは、「動作の開始(助走も含む)から着地の動作の終了まで」を指す。
 - ・髪の毛がネットに触れた場合、ボールをプレーする相手に影響を与えたり、ラリーを中断させたりすることが明らかな場合のみ、反則とする。
 - ・選手の片方の足(または両足)が相手コートに完全に侵入したときは反則である。
 - ・相手チームのプレーを妨害しない限り、足首より上の身体のどの部分が相手コートに触れてもよい。

4. サービス（スクリーン）に関する事項

- ・ラリー間のインターバルをおよそ8秒のリズムにするため、
 - ①ボールを拾いに行く場合は、速やかに1人で行く。
 - ②ボールを相手コートに送る場合は、安全に注意し、素早く転がす。
 - ③次のサーバーは、コート内ではなく、サービスゾーンでボールを待つ。
- ・低いサービスボールが、形成されたスクリーンの上を通過しネット垂直面を通過したときに、スクリーンの反則が成立する。
- ・スクリーンを形成していることが明らかな場合、両チームに対して指導と注意を与える。再発した場合は、スクリーンの反則が成立する。

5. リベロに関する事項

- ・サービスのホイッスルの後であっても、サービスヒットの前であれば、リプレイスメント（入れ替え）は拒否されない。しかし、これは許された手続きではなく、さらに再発した場合は、遅延行為に対する罰則が適用されることを、そのラリー終了後、ゲームキャプテンに伝える。
- ・リプレイスメントの遅れが再発した場合は、プレーを直ちに止め、遅延行為に対する罰則を適用する。ディレイワーニング（黄カード）の場合、その時のリベロリプレイスメントは、認められない（リベロがポジション4（前衛レフト）に上がってくる場合を除く）。ディレイペナルティ（赤カード）の場合、リベロリプレイスメントは認められる（ラリーが完了したと考えられるため）。
- ・記録員は、チーム登録として記載した12名の選手名にしたがって、監督から指名されたリベロの名前を転記する。その際、12名の選手名は消さない（上下2箇所）に記入。
- ・リベロは、チームの他の選手と対照的な色のユニフォーム、またはビブス（高さ15cm以上の「L」の文字をつける）を着用しなければならない。
また、リベロが2名いる場合は、他のチームメンバーと同様に、2名が異なった番号を付けるか、ビブスの色を変える必要がある。
- ・リベロがビブスを使用する場合、公式ウォームアップが終了してから着用する。
- ・2組同時のリプレイスメントはできない。
- ・リベロ同士のリプレイスメントはできる。
- ・リベロおよびリベロと交代する選手は、チームのベンチ前のアタックラインとエンドラインの間のサイドライン（リプレイスメントゾーン）からコートに出入りする。
チェックミスを防止するため、リベロと相対する選手は、必ずサイドライン上で一旦立ち止まる（つま先をそろえる）ように指導を継続する。

6. 公式ハンドシグナルに関する事項

- ・主審がラリーの完了のホイッスルをしたとき、副審はハンドシグナルを示す必要はない。
- ・正規の競技中断の要求を、副審が受け付けてホイッスルをし、ハンドシグナルを示した場合は、主審はハンドシグナルを示す必要はない。